

磯 曾 乃

題字は社宝伝崇徳天皇ご宸筆
勅額の文字を模したものです。

日暮れて道尚遠し

前宮司 井上 千賀司



伊曾乃神社御奉仕二十年……。齢七五才……。まあこの辺で良からうとけじめをつけました。思えば平成九年、宮司就任にあたりて社報「磯野」を復刊して、その紙面冒頭に就任の御挨拶を申し述べさせていただきました。

その際、葛城名譽宮司様には退任にあたりて「光陰矢の如し」という文章をいただきました。

その中で「歲月は人を待たず云々……。」という件りがありました。わずかな時間も大切に、その時間を有意義に使うよう努力しなさいという意味合いでありましょう。

これと同義語として「少年老い易く学成り難し、一寸の光陰軽んずべからず」の言葉もあります。

確かに小子なども「何か」を求めんとして神主になり、神明奉仕も指折り数えて五十一年という歳だけは重ねてまいりました。

然し乍ら……、嗚呼……。將に学成り難し。求めようとするその「何か」は臍氣にも見えていない有様です。

そこで、孟子の言葉に救いを求めれば、「曰く、道は爾きに在り。しかるにこれを遠くに求む」

道理とか、真理は極く手近なところにあるのに、わざわざ遠いところをそれを求めようとする。だからその「何か」が見えないのだという教えに出合いました。

そして私が求めてきたその「何か」とは「神ながらの正道」に他ならないという事に気付きました。

扱て、向後は西条市内鎮座の風伯神社の宮司として、今暫らくは御奉仕に相務めさせて戴く事に成りました。

これからは肩肘はらずに時間を有効に使い、趣味等を通じて身心の陶冶に励み、人と接し、神様の御心に適うべく、社会の師表たるべく切磋琢磨に励んでいきたいと思えます。

又、ライフワークとして戦後社会の世相にどっぷりとつき合ってきた己の内なる部分にライトを浴びせ、自身の心の推移などをも自分なりに確かめて、「日暮れて道尚遠し」という我が凡庸さを少しでも補う事が出来るよう努めていきたいと思えます。(平成27・6・12記)

就任のご挨拶

宮司 堀川 修 巧



このたび井上千賀司宮司の後任と致しまして、関係者各位からの御推挙をいただき、本年五月一日を以て伊曾乃神社宮司を拝命いたしました。洵に光栄の至りに存じますと共に、浅学非才にてその職責の重大なることを痛感し身の引き締る思いでございます。

今後は至らぬ身ながら誠心誠意全力を尽くして社務に努むる覚悟でありますので、何卒、皆様方のご助力を切にお願ひ申し上げます。

さて、伊曾乃神社は悠久の昔、今から約一八八〇年前よりここ西条の総氏神さまとしてご鎮座されております。

昭和十五年の国幣中社列格に当たり内務省へ提出した「神社明細帳」には「伊曾乃神社ハ一二磯野宮磯大神宮伊曾乃大社ト稱シ 成務天皇七年ノ創祀ト云フ 第十二代景行天皇ハ第十二皇子武國凝別命ニ國土經營ノ大任ヲ托シ 伊豫東部ノ地ニ封セララル 命先ツ大祖天照大神ヲコノ地ニ奉齋シテ庶民ヲ愛撫シ 皇化ヲ宣布シ給フ 其裔孫三村別氏此地ニ蕃衍シ 始祖武國凝別命ヲ合祭シ代々相受ケ祭祀ヲ掌リ云々」とあり、爾来一八七八年の歴史を刻んでおります。

奈良時代の天平神護元年に伊豫国で初めての神戸(かんべ)を受け、翌年には我が国で始めての神位を叙せられました。平安時代は延喜の制で名神大社に列格し、崇徳天皇讃岐に御座せし時は当社に勅額を賜ひ、鎌倉時代の建仁の頃に神領三六〇町を有するほど古代においては有力なる地方の大社として崇敬をされておりました。

しかしながら、その後の源平の合戦、承久の乱などで多くの人が国難に殉じ、戦国の乱世の中で天正十三年豊臣秀吉の四国征伐の兵火に罹り社殿宝物など悉く失ひ、慶長十一年までの二十一年間、土佐寺川に御神靈は遁れるなど苦難の時を過ごしました。

江戸時代に入りますと、西條藩主松平頼純公が当社に社地を寄進されるなど歴代藩主の崇敬と人々の支えのもと徐々に社運を取戻し、昭和十五年には時の田窪千秋宮司と大倉条馬翁を中心とした氏子崇敬者らの熱き想いで国幣中社列格の恩恵に浴しました。

今宮司の重責を担うに当り、改めて伊曾乃神社のご由緒来歴を振り返りまして、ここ西条の地で私達のご先祖様たちが常に心を寄せ、誇りをもって護ってこられましたこの伊曾乃神社を次の世代にしっかりと伝えお繋ぎするべく認識を新たにしております。

奇しくも平成二十九年は御創祀一八八〇年の佳き年にあたり、その記念奉賛事業に白木秀典会長様を始め、常務総代、氏子総代、奉賛会の皆様とともに職員一丸となって取り組んで参ります。

何卒今後とも変わぬ温かいご支援ご助力を賜りますようお願い申し上げます。最後となりましたが、氏子崇敬者の皆様方には日頃の当社への格別のご高配に深謝申し上げますとともに、伊曾乃大神様の更なる御加護を祈念申し上げます。宮司就任のご挨拶とさせていただきます。

御創祀一八八〇年記念事業奉賛会 ご寄付のお願い

待合殿・回廊・社務所増改築完成予想図

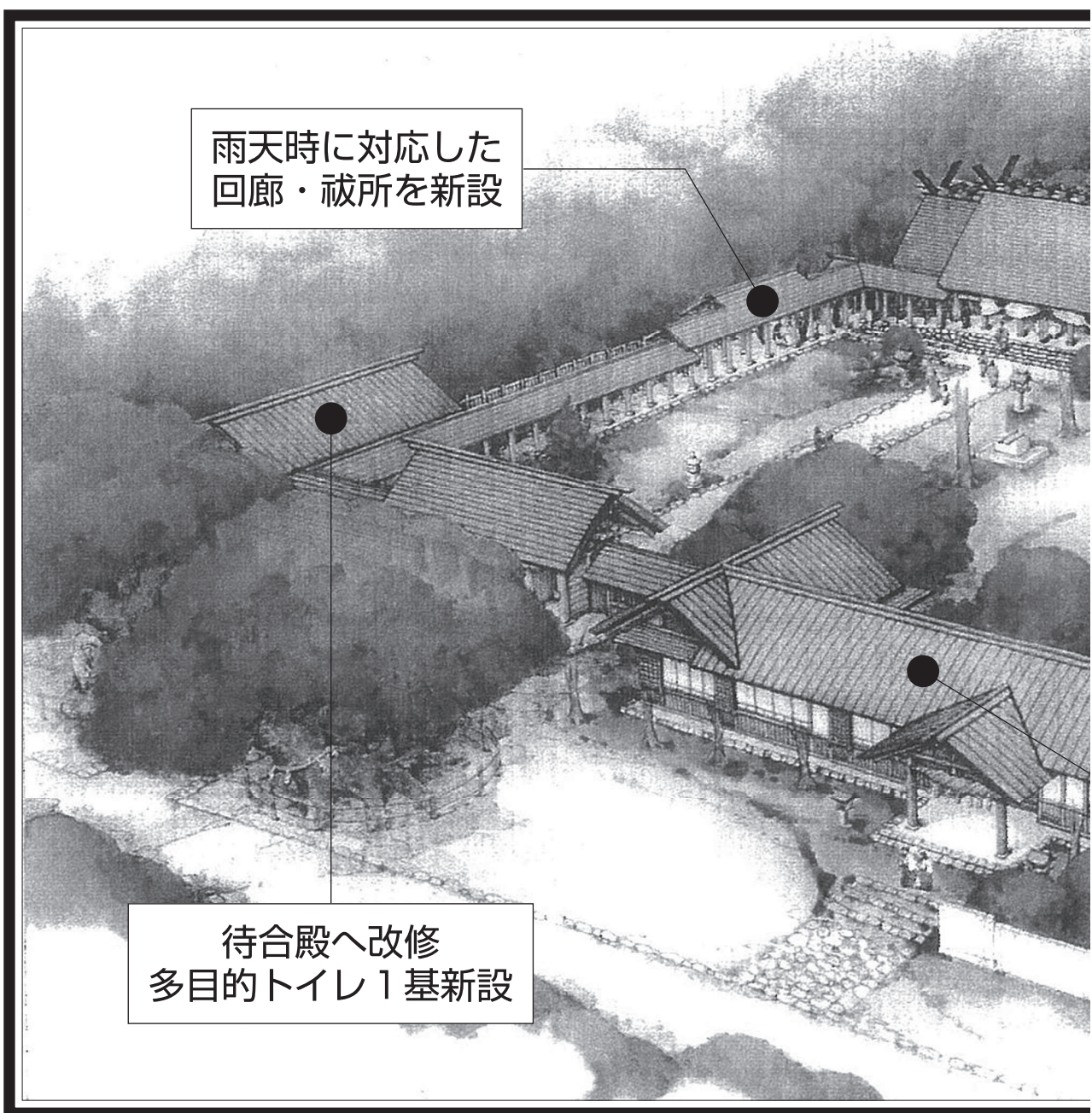


事業概要

- 一、待合殿・回廊建設
授与所を待合殿に改修し、多目的ト
イレを一基増設します。
また、回廊を新設し、祓所を併設致
します。
- 二、社務所増改築
社務所内部の改修と、部分的な増改
築を致します。
- 三、その他関連工事

概算費用

- 一、外部（土木・外構）関係工事
一〇〇〇万円
- 二、待合殿・回廊建設工事
三〇〇〇万円
- 三、社務所増改築工事
六〇〇〇万円
- 四、建設工事関係諸経費
一〇〇〇万円
- 五、関連費用
四〇〇〇万円
- 合計 一億五〇〇〇万円



雨天時に対応した
回廊・祓所を新設

待合殿へ改修
多目的トイレ1基新設

氏子総代様・お世話人様を中心に、奉賛活動をお願い致しております。
この奉賛事業にご理解とお力添えを賜りますよう、お願い申し上げます。

伊曾乃神社御創祀一八八〇年記念事業奉賛会
事務局（伊曾乃会館内）
（土・日・祝日を除く九時～十五時）

電話 〇八九七（四七）七六九〇

社務所
電話 〇八九七（五五）二二四二

- | | | | | | | | | | | |
|----|-------|-------|-------|-----------|-------|-----------|-------|-----------|-------|-------|
| 宮司 | 堀川 修巧 | 理事 | 明比 昭治 | 副会長（建設担当） | 戸田孝一郎 | 副会長（財務担当） | 三浦 仁 | 副会長（総務担当） | 明比 幹夫 | 白木 秀典 |
| | 岩井 健一 | 尾野 和夫 | 伊藤 勇 | 副会長（建設担当） | 矢野 幸雄 | 副会長（財務担当） | 小野 昭雄 | 副会長（総務担当） | 安藤 勝俊 | |
| | 加藤 武司 | 木藤 清 | 伊藤 道雄 | 副会長（建設担当） | 伊藤 幸雄 | 副会長（財務担当） | 三浦 仁 | 副会長（総務担当） | 伊藤 勝俊 | |
| | 渡邊 博毅 | 松本 一夫 | 伊藤 道雄 | 副会長（建設担当） | 伊藤 幸雄 | 副会長（財務担当） | 小野 昭雄 | 副会長（総務担当） | 伊藤 勝俊 | |
| | 西山 多一 | 安永 省一 | 黒川 清美 | 副会長（建設担当） | 伊藤 幸雄 | 副会長（財務担当） | 小野 昭雄 | 副会長（総務担当） | 伊藤 勝俊 | |
| | 高瀬 康雄 | 大澤 勝幸 | 黒川 清美 | 副会長（建設担当） | 伊藤 幸雄 | 副会長（財務担当） | 小野 昭雄 | 副会長（総務担当） | 伊藤 勝俊 | |
| | 日野 信二 | 高瀬 康雄 | 黒川 清美 | 副会長（建設担当） | 伊藤 幸雄 | 副会長（財務担当） | 小野 昭雄 | 副会長（総務担当） | 伊藤 勝俊 | |
| | 矢野 胤勝 | 日野 信二 | 黒川 清美 | 副会長（建設担当） | 伊藤 幸雄 | 副会長（財務担当） | 小野 昭雄 | 副会長（総務担当） | 伊藤 勝俊 | |
| | 近藤 清政 | 矢野 胤勝 | 黒川 清美 | 副会長（建設担当） | 伊藤 幸雄 | 副会長（財務担当） | 小野 昭雄 | 副会長（総務担当） | 伊藤 勝俊 | |

境内整備の状況

奉賛会活動に先駆け、四月から氏子有志の方々による境内整備作業を賜りました。



御芳名を記し、厚く御礼申し上げます。

- | | | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|--------------------|
| 村上 | 高橋 | 小野 | 矢野 | 日野 | 加藤 | 御芳名を記し、厚く御礼申し上げます。 |
| 敏之 | 淳司 | 昭雄 | 幸雄 | 信二 | 武司 | |
| 様 | 様 | 様 | 様 | 様 | 様 | |
| | 荒井 | 明比 | 尾野 | 明比 | 伊藤 | |
| | 真介 | 真一 | 和夫 | 幹夫 | 勇 | |
| | 様 | 様 | 様 | 様 | 様 | |

(順不同)

整備作業は、迎賓館及び斎館、文庫周辺の立木伐採、除草等を実施下さりました。





さらに、今回の奉賛会事業とは別事業として参道沿いの白壁修復工事に着手するとともに、旧神門の現状調査を、西條史談会吉本 勝先生をはじめとする有識者各位のご協力を得て行いました。



また、第一回奉賛会総会の準備作業では敬神婦人会の皆様にご協力を賜りました。洵に有難うございます。

二、愛媛県の祭りに出ている主なダンジリ

次に愛媛県に出ている主なダンジリについて紹介する。

東予では四国中央市は主に太鼓台である。川之江三島は下幕が前後掛け布団であり、重は川之江が赤、三島は赤白黄緑等の色違いの重ね、土居は新居浜型で昭和の後期から急速の台数が増えた。他には三島に一基播州型反り布団太鼓台、川之江と土居には曳き船、寒川には担ぎ船がある。新宮地区には曳き屋台が一基ある。



三島の太鼓台



新宮の屋台



三島の反り布団太鼓台

新居浜市は太鼓台であるが、大島地区には西条だんじりとよく似た小型のだんじりが出る。



波止浜の神輿



新居浜大島のだんじり



大西の櫓



大西の船

今治市は波止浜に曳きダンジリ型神輿、大西に担ぎ船・櫓(太鼓台)、菊間は牛鬼、大島に櫓、大三島にはダンジリ(西条型みこしと曳きダンジリ)・布団ダンジリ・宮ダンジリ(布団型や屋根型太鼓台)等様々なダンジリが出る。みこしと曳きダンジリのお囃子は西条のみこしと酷似している。布団ダンジリで歌われる伊勢音頭は西条とよく似ている。

(次号、中予・南予に続く。)



大三島のダンジリ



生名のダンジリ

例大祭

平成二十七年の年番は神戸地区です。

本年は、神戸地区（常務総代 明比幹夫氏）です。宜しくお願い致します。

だんじり・みこし 奉納願

七月中旬ごろより、各町内の氏子総代様へ郵送致しますので内容をよく確認の上、期日までに提出して下さい。

なお、氏子総代様は運行責任者（総取締）へお渡しいただきますよう、お願い申し上げます。

提出期限 八月三十一日（当日消印有効）

記載内容

- 一、正確な「だんじり」または、「みこし」の名称
- 二、責任者の「住所」、「氏名」、「捺印」
- 三、提出年月日または、投函年月日

留意事項

- 一、記載漏れ、提出期限外の場合は、受付できません。
- 二、関係機関の資料となります。
- 三、提出は早めをお願いします。

鬼頭・屋台総代総会



奉納願に記載された運行責任者（総取締）へ案内状を郵送致します。配布資料等がございますのでご出席下さい。

日時 九月六日（日）

（受付）

午後六時三〇分より

（開会）

午後七時〇〇分より

会場 西条市総合文化会館

事始式

各町内の、だんじり・みこしの運行責任者・青年団長等、運行に責任ある役職の方は、町内揃いの祭り装束で必ず参列して下さい。

祭典後、神札・昇夫番号札等をお渡し致します。

日時 十月三日（土）

（神戸・大町・玉津） 午後二時〇〇分より

（西条・神拝） 午後三時〇〇分より



昇夫守り

例大祭の昇夫用お守りです。ご希望の方は次の要領でお申し込み下さい。

名前入り

電話申込不可

（専用の申込書に限る。）

受付期間

七月一日～九月十三日

初穂料

一体 八〇〇円



*ご自身の「氏名」をお知らせ下さい。「姓」、「名」または、「愛称」などはお守りですので受付できません。

名前なし

受付期間 七月一日～十月十五日

初穂料 一体 五〇〇円

*頒布開始は十月一日 正午より

○お申込から数週間程度かかります。余裕をもってお申し込み下さい。

○申込用紙は、当社ホームページからダウンロードできます。

表彰・感謝状・受賞者御芳名

年番表彰(大町地区)

- 氏子総代 松本 一夫 殿
- 氏子総代 木藤 清 殿
- 氏子総代 伊藤 道雄 殿
- 氏子総代 藤田 虎雄 殿
- 氏子総代 高橋 成尚 殿
- 鬼頭永年勤続表彰(二〇年)

- 総取締 岡村 重治 殿
- 副取締 明日 清輝 殿
- 副取締 塩崎 康秀 殿

神社運営に御尽力を賜り、洵に有難うございました。御芳名を紹介し、御礼申し上げます。今後とも、ご協力の程を宜しくお願い申し上げます。

御奉仕御礼

- 正月前の境内清掃奉仕 神戸長寿会、神拝神友会の皆様
 - 神門前大注連縄奉製 神戸長寿会の皆様
 - 春祭前の境内清掃奉仕 大町福寿会、神戸長寿会、神拝神友会の皆様
 - 春祭餅つき奉仕 神戸長寿会の皆様
 - 春祭餅包み奉仕 明比徳子様ほか有志の皆様
 - 下福古墳清掃奉仕 西條史談会有志の皆様
- 御多忙の中、御尽力を賜り洵に有難うございました。厚く御礼申し上げます。

ごあんない

夏越祭

旧暦六月十五日

本年は 七月三十日(木)です

- ・場所 加茂川橋下流 右岸(加茂町)
- ・時刻 午後六時頃より午後九時頃まで

*当日は、以下の内容で信号煙火を打ち上げます。

- ・祭典実施報知 午前八時頃
- ・御神輿本社発 午後五時頃
- ・御神輿斎場着 午後六時頃

ご家族、ご近所お誘い合わせの上、多数御参拝下さい。仮設授与所にて、おまもり・おふだ・おみくじ・夏越酒を準備致しております。



新嘗祭並 大嘗祭 麻頒布始祭

伊勢の「神宮大麻」と、当社の「神社大麻」の頒布始祭を、新嘗祭と併せて斎行致します。

氏子の皆様には、各町内の氏子総代様のご協力を賜り頒布致します。

ご家庭祭祀の基として、どうぞお受け下さい。



- ・祭典 十一月二十三日(月) 勤労感謝の日
- ・時間 午前九時より

氏子総代の皆様へ

各町内の「神宮大麻」、「神社大麻」、「神社暦」を祭典後にお渡し致します。後日、祭典の案内状を郵送致しますので、ご参列下さいませようご案内申し上げます。

社頭 点描

正月三日

予報とは異なり、穏やかな日が続きました。二日は田宮流居合術を、三日には荒川獅子舞の奉納がございました。



初天神祭。筆供養祭

一月二十五日、境内の伊曾乃天満宮にて斎行し、市内外から奉納された古筆約一〇〇〇本を供養しました。



紀元祭

二月十一日、午前十時より祭典を執り行い、午後より石鎚社会館で行われた「建国記念の日奉祝東予地区大会」に参加しました。



祈年祭

二月十七日、立正佼成会西条教会のご協力による雅楽演奏の中、厳粛かつ盛大に大祭を斎行しました。



氏子総代会

出席者多数のもと、春季氏子総代会を三月二十二日に伊曾乃会館で開催しました。



祭式研修会

三月二十八日、県神社庁主催の祭式研修会が伊曾乃会館で開催され、県内各地から神職が参加し、祭式作法の研鑽に励みました。



開運春祭

雨天となりましたが、恒例の開運春祭を四月五日に斎行し、裏千家淡交会西条支部による奉茶・奉炭、茶筌供養や月次釜のほか、子供相撲大会や子供だんじりの奉納、餅投げを行いました。



崇敬者大祭

四月二十九日、昭和祭と併せて、崇敬者大祭を斎行し、会員の健康と幸福を祈願致し、祭典後には総会も行いました。



菖蒲祭

こどもの日である五月五日、敬神婦人会の祭典奉仕を戴き、子供の無事成長を祈願しました。



第一回奉賛会総会

五月十六日、御創祀一八八〇年記念事業奉賛会の第一回奉賛会総会を開催し、事業説明に続き、校区毎による事業推進方法等を協議しました。





(平成二十七年六月)
平成二十七年十一月

六月	一日 朔日祭	午前九時	
	十五日 月次祭	午前九時	
		古神札焼納祭	午前十時
		大祓式	午後五時
七月	一日 朔日祭	午前九時	
	十五日 月次祭	午前九時	
	三十日 夏越祭	夕刻	
八月	一日 朔日祭	午前九時	
	十五日 月次祭・大東亜戦争終結七十年記念祭	午前九時	
	十七日 瑞枝神社例祭	午前八時	
	下旬 秋季氏子総代会		
(後日通知)			
九月	一日 朔日祭	午前九時	
	六日 鬼頭・屋台総代総会	午後七時	
	十五日 月次祭	午前九時	
	二十三日 秋季皇霊祭遙拝式	午前九時	
	物故神職慰霊祭	午後二時	

十月 一日 朔日祭並昇夫守入魂祭
午前十時

三日 事始式

午後二時・午後三時

十四日 宵宮祭

十五日 例大祭

十六日 神幸祭

御旅所祭

神幸祭

還御祭

神嘗奉祝祭

朔日祭

明治祭

月次祭並七五三祈請祭

新嘗祭並大麻頒布始祭

午後二時・午後三時

午前四時三十分

終日

午前四時五十分

終日

午後六時

午前九時

午前十時

午前九時

午前九時

午前九時

特別祭典のご案内

大東亜戦争終結七十年にあたり、次のとおり祭典を執り行い、英霊の鎮魂と国家安泰を祈願致しますので、ご参列くださいますようお願い申し上げます。

大東亜戦争終結七十年記念祭

日時 八月十五日(土) 午前九時より
(月次祭に併せ斎行)

伊曾乃神社謹製ネクタイピン



石水信至氏下絵
(イメージ画)

価格：3,240円(税込)

数量限定

事前申込数を参考に作製します。

仕様 本体 長さ5cm 銀製AG925(ワイパー部分を除く)
いぶし銀仕上げ

1個1個手作業仕上げのため、若干の違いがあります。

裏面 「伊曾乃神社」の文字入り 留め金具 ワイパー式

申込方法 神社備え付けの申込書に必要事項を記入の上、代金を添えて、10月末までに、伊曾乃神社社務所に申し込んでください。電話等での申し込みは受け付けることができません。

お引き渡し 平成28年元日より伊曾乃神社にて行います。

お問い合わせ 伊曾乃神社 〒793-0054 西条市中野甲1649
TEL 0897-55-2142

発行

伊曾乃神社社務所

〒793-0054 西条市中野甲一六四九

電話 ○八九七・五五・二一四二

FAX ○八九七・五六・四七六二

HP <http://www.isonojinja.or.jp/>